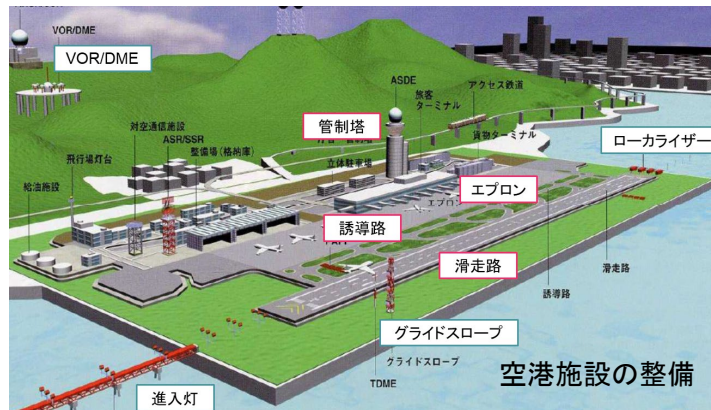


# 空港・港湾施設の 整備効果及び利用のイメージ

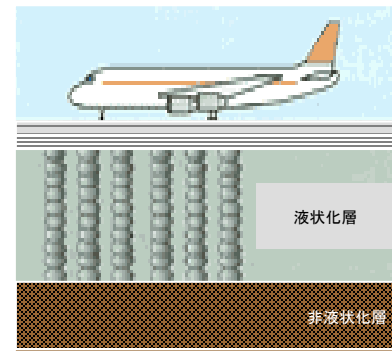
# ① 民生利用のイメージ（空港）

- 空港のゲートウェイ機能を発揮するための受入環境整備により、今後の航空需要の回復・増大に対応。
- 空港の防災・減災対策の推進、滑走路端安全区域整備等により、航空の安全・安心を確保。

## 空港における受入環境整備

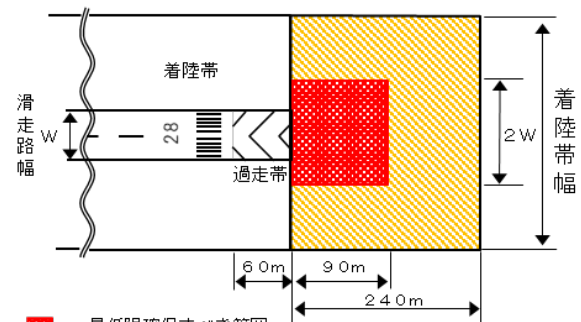


## 航空の安全・安心の確保



液状化層の地盤改良対策により、舗装の損壊を防止

防災・減災（耐震対策等）  
・RESAの長さおよび幅(国内基準\_平成29年4月改訂)



■ : 最低限確保すべき範囲  
■ : 可能な限り用地の確保に努める範囲 ※計器着陸用滑走路1,200m以上の場合

オーバーラン等へ対応する滑走路端安全区域

# ① 民生利用のイメージ（港湾）

○ 岸壁、航路、防波堤等の港湾施設の整備により、フェリー・RORO船、バルク貨物船等の大型化や貨物需要の増大への対応、大型クルーズ船等の受入環境の整備、船舶の航行安全の確保、災害時の港湾機能の確保等を図る。

## 船舶大型化等への対応



RORO船の荷役状況

## 船舶の航行安全の確保



防波堤により荒天時の波浪等から港内静穏度を確保

## クルーズ船の受入環境整備



大型クルーズ船やラグジュアリークラス  
のクルーズ船等の接岸に対応

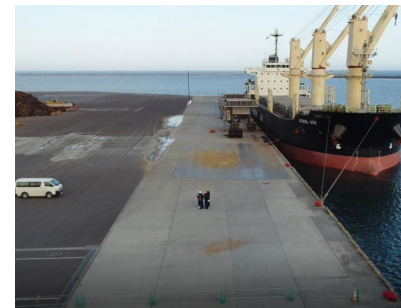
## 災害時の港湾機能の確保

○大規模地震発生後の岸壁の状況

非耐震岸壁：  
ひび割れ等発生



耐震強化岸壁：  
異常なし



耐震強化岸壁の整備効果

## ②国民保護・災害派遣利用のイメージ

### 空港

- 空港の整備・利用により、短期間の島外避難を必要とする国民保護時の輸送能力を確保するとともに、災害派遣の救援部隊の派遣をより効率的に実施。
- 波浪等により船舶による避難が困難・遅延する場合においても、航空機による避難経路を確保。

### 港湾

- 大型船舶を用いることにより、国民保護時の輸送能力が向上する。
- 大型船舶の出入港が可能となることにより、災害時に大型船舶を用いた緊急物資輸送や医療支援等が可能になるとともに、大規模災害からの復興に際し、大量の建設資機材の搬入等が可能となる。



住民避難のイメージ  
(国民保護共同訓練より)



被災者等空輸のイメージ  
(防衛省災害対処に係る訓練より)



救援物資・車両の搭載  
(防衛省災害派遣時の写真)



被災地での給水支援  
(海上保安庁災害対応の写真)

# ③自衛隊・海上保安庁利用のイメージ

## 自衛隊

- 航空機を状況に応じて配置することにより、侵攻部隊に対し、より遠方で対応します。
- 状況に応じて必要な部隊を迅速に機動展開。併せて国民保護を実施します。
- また、大規模災害発生時には、災害派遣の効率的な実施が可能となります。
- 上記の実効性を確保するため、平素から訓練等で空港・港湾を利用します。



### 利用する艦艇・航空機のイメージ（一例）



※訓練時写真

## 海上保安庁

港湾施設等におけるテロ等の警戒、捜索救難・人命救助、国民保護等への対応及び必要となる補給、訓練等のために空港・港湾を定期的にご利用します。

港湾施設等のテロ等警戒      捜索救難及び人命救助

海峡等における警戒監視      住民の避難及び救援

船舶への情報提供及び避難支援

### 港湾施設等のテロ等警戒



### 利用する巡視船艇・航空機のイメージ（一例）



※訓練時写真